

スマホ型クレカ決済サービス

1万円台でカードリーダー提供へ

(株)ロイヤルゲート

オンライン決済システムなどを提供する(株)ロイヤルゲート(東京都港区、梅村圭司社長)は今年4月、スマートフォン型クレジットカード決済サービス「PAYGATE(ペイゲート)」を発表した。使用するカードリーダーは1台1万5750円とこれまでの約7分の1程度で利用することが可能なほか、日本で初めてandroid OSの機種にも対応した。同社では現在、カードリーダーの増産体制に入っており、10月には提供を開始する予定。梅村社長は「保険会社を含め多くの企業から問い合わせが来ている。中には契約まで話が進んでいるものもある」と反響の大きさを語る。



直筆でのデジタルサインや写真とGPSでエビデンスを残すことも可能

とから、同社ではそれに準拠していることを確認した上で、「PAYGATE」を発表した。今後、社団法人日本クレジット協会が策定を予定しているクレジットカード業界統一のガイドラインにも準拠した対応を行うことにしている。

スマートフォンやタブレットでの決済も簡単に

「PAYGATE」では、国内外で利用されている規格に自社開発したのも加えることで幾重にもわたる強固なセキュリティ対策を施したという。加えて、個別に個人識別番号を付与するなど、紛失などでの不正利用を防ぐ対策も行っている。決済時の利用控えも、紙での交付に加え、写真やGPSの位置情報、直筆のサインなどをデータとして交付したり保存したりすることもできるため、悪用やクレームにも迅速に対応できるとしている。スマートフォン自体にも、これまで

「PAYGATE」では、国内外で利用されている規格に自社開発したのも加えることで幾重にもわたる強固なセキュリティ対策を施したという。加えて、個別に個人識別番号を付与するなど、紛失などでの不正利用を防ぐ対策も行っている。決済時の利用控えも、紙での交付に加え、写真やGPSの位置情報、直筆のサインなどをデータとして交付したり保存したりすることもできるため、悪用やクレームにも迅速に対応できるとしている。スマートフォン自体にも、これまで

強固なセキュリティを実現

しかし、米国では利用規模も拡大している状況を踏まえ、昨年末から経済産業省と国内のカード会社、日本クレジットカード協会などが集まり、国内でサービスを導入する際のガイドラインの策定を開始。今年4月13日に「スマートフォン決済の安全基準に関する基本的な考え方」とのガイドラインが発表となったこ

本体は9cm、100gとコンパクト Bluetoothでスマートフォンと連携



同社では、これまでも携帯電話のみでオンライン決済可能なシステムを提供してきた。専用のカードリーダーが不要のため、セキュリティ面で

同社では、これまでも携帯電話のみでオンライン決済可能なシステムを提供してきた。専用のカードリーダーが不要のため、セキュリティ面で

生損保からも問い合わせが

「PAYGATE」の発売で保険業界でのクレジットカード払いが増加するか、今後の成り行きが注目される。